



東京宣言

私たちは、2007年4月27日に、東京海洋大学楽水会館で開催された内閣府認証特定非営利活動法人(NPO)【海の森づくり推進協会】が主催する「海の森づくり第2回こんぶサミット in 壱岐・東京ー環境と食育ー」に参加し、21世紀の循環型社会創生の第1歩として都市と漁村の連携の重要性を学びました。

かつて水産王国を自負した日本は南北3千キロに伸び、四方海に囲まれ、3万5千キロという地球円周の85%に相当する海岸線を持ち、国土の十数倍に相当する447万平方キロという排他的経済水域を有する世界有数の海洋国で、水産物を他国に依存する必要がないどころか、海の時代といわれる21世紀の賢い海の利用に対するリーダーシップが問われています。特に、国民生活の安全保障に貢献する多面的機能を持つ水産分野に対する期待が高まっています。

しかしながら、沿岸漁村では過疎化が進み、起死回生が迫られております。その対策の一つとして、海藻の養増殖技術を駆使して、津々浦々に散在する漁業協同組合と連携して、海藻の養増殖を促進し、海洋環境を浄化し、磯やけや赤潮等による弊害を無くし、不特定多数の在来生物を育み、沿岸の生態系を多様化し、現栽培漁業や藻場造成を補完し、水産資源を増やし、漁村の活性化を図る栽培漁業技術革命が提案されています。

一方、都市では、糖尿病・肥満症・高血圧・高脂血症・メタボリックシンドロームなど生活習慣病に対する関心の高まりで、食育の重要性が高まり、医療費の削減や食品関連産業の振興に繋がるヘルスフード(機能性食品)としての水産物の有効利用が重要となってきております。

このように、環境と食育に関心の高い都市市民と環境浄化や食育改善に貢献できる漁村は、協力する素地はありますが、漁村が無くなっても、日本の食糧安全保障は輸入で対応できると考えている都市市民が多く、日本の都市と漁村は絶交状態です。このような関係は、早急に改善しなければなりません。

このサミットを機に、環境改善、漁業振興、健康増進を同時に考える「海の森づくり運動の3つのスローガン: ①山・川・海健康を取り戻そう、②海の森づくり運動を全国に広げよう、③“こんぶ”は地球と人を救うお医者さん」を参加者一同で考えます。

平成19年4月27日

海の森づくり第2回こんぶサミット参加者を代表して
第2回こんぶサミット実行委員長 松田 恵 明